

## 第35期(平成23年6月期)第2四半期決算説明会資料

---

株式会社ユビテック  
代表取締役 荻野 司  
(JASDAQ 6662)

本日ご説明申し上げる情報のうち、業界の動向や分析、当社の計画・見通し・戦略等につきましては、将来の業績に関する予想値であり、現時点において入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

実際の業績はさまざまな重要な要素により、かかる予想値とは大きく異なる結果となる可能性がございますことをご了承下さい。

なお本資料は、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

● 会社概要

次世代ユビキタス技術の創造に挑戦

技術と顧客志向

# プロフィール紹介

## ユビテック プロフィール

1977年11月	会社設立
1986年9月	<b>新日本製鐵(株)</b> の子会社となる
1993年4月	液晶プロジェクター用 <b>映像エンジン</b> の開発
1998年4月	<b>ATM</b> (現金自動支払機)、両替機用検知ユニットの開発
1999年4月	液晶テレビ用映像エンジンの開発
2002年4月	(株)インターネット総合研究所の100%子会社となる
2004年7月	タウ技研(株)から(株)IRIユビテックへと社名変更
2004年9月	<b>パナソニック電工(株)</b> 資本参加
2004年11月	<b>三井物産(株)</b> 資本参加
2004年10月	ISO14001・9001認証同時取得
2005年6月	<b>大証ヘラクレス市場に上場</b> (証券コード:6662)
2006年8月	(株)ユビテックソリューションズ(旧(株)日本エンジニアリングシステム)を子会社化
2007年4月	ベトナムに「Ubiteq Solutions Vietnam, Ltd.」設立
2007年11月	<b>オリックス(株)</b> のグループ会社となる
2007年12月	(株)IRIユビテックから <b>(株)ユビテック</b> へと社名変更 パナソニック電工(株)資本提携発表(第二位大株主へ)
2008年7月	大阪事務所開設
2008年9月	オリックス自動車(株)カーシェアリングサービス「プチレンタ」用車載システムを開発。
2008年11月	オフィス向けインターネットと設備制御の統合ゲートウェイ「BX-Office」を開発
2009年7月	BXシリーズ&UEW(ユビテックエネルギーウォッチャー)販売開始
2009年12月	<b>ネットワンパートナーズ(株)</b> とBX-Officeの販売代理店契約を締結 ネットワンパートナーズ(株)から <b>シスコ合同会社のルータ</b> と当社のBX-Officeシリーズを組み合わせた <b>CFMS by BX-Office販売</b>
2010年7月	<b>オリックス(株)</b> の直接子会社となる BX-OfficeをSaaS TYPEに進化させた「UBITEQ-G-SERVER」、 「UBITEQ-G-PILOT」の提供開始
2010年12月	SaaS型省エネサービス「Ubiteq G Service」の提供開始

## 荻野 司 プロフィール

1986年キヤノン(株)入社。中央研究所を経て、ハードウェア及びソフトウェア設計等、新製品の開発に携わる。その後、ISP事業開始のため1996年ファストネット(株)へ出向。1999年同社取締役役に就任。2000年(株)インターネット総合研究所(以下、IRI)執行役員に就任。同年(株)インターネットシーアンドオー代表取締役社長に就任し、キヤノングループやNTTファミリー企業とジョイントベンチャーによるMSP(Managed Service Provider)事業を起業する。

2000年から(社)日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)のIP担当理事を務め、日本におけるインターネットの普及基盤整備に尽力。また、IPv6普及・高度化推進協議会には設立時より参画し常務理事を務めIPv6普及の啓蒙活動にも注力。2002年にIRI取締役に就任し、同年、ユビキタス時代におけるネットワーク、コンピュータとの融合技術を中心とした研究・開発組織、ユビキタス研究所を設立。また、IPv6・センサネットワークキングコンソーシアム 運営委員を務め、non-PCや施設管理におけるインターネット利用など、次世代インターネットプロトコルIPv6を基軸としたインターネット高度利用研究にも注力。

2003年9月に(株)ユビテック代表取締役社長に就任し、2005年6月には大阪証券取引所ヘラクレススタンダードに同社の上場を果たす。(証券コード6662)

また、2005年からは、ワイヤレスブロードバンド推進協議会の発起人も務め、WiMAXを中心とする次世代インターネット技術の普及や啓蒙活動に注力する一方、現在は、ファシリティ分野におけるIT利活用のための活動として、東京大学におけるグリーンITプロジェクトに参画。ITを用いた「やりたくなる省エネ」の実現に注力している。

静岡大学創造科学技術大学院 客員教授(2004年-2009年)、同大学院アドバイザリー(現)も務める。

# 役員構成

明石直人(常務取締役) * 常勤	(株)富士銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)等を経て平成16年2月入社
白木道人(常務取締役) * 常勤	キヤノン(株)を経て、平成16年7月当社入社
平田満(取締役) * 常勤	新日本製鐵(株)より平成8年9月に当社出向、平成15年7月入社
野方孝之(取締役) * 常勤	(株)日本債券信用銀行(現 (株)あおぞら銀行)、三洋電機(株)等を経て、平成18年6月当社入社
藤原洋(社外取締役)	日本アイ・ビー・エム(株)、日立エンジニアリング(株)、(株)アスキーを経て(株)インターネット総合研究所を設立 代表取締役所長
徳田英幸(社外取締役)	カーネギーメロン大学 計算機学科を経て慶応義塾大学 政策・メディア研究科委員長 兼 環境情報学部長
江崎浩(社外取締役)	(株)東芝 総合研究所、ベルコア社、コロンビア大学CTRを経て東京大学 大学院教授
梁瀬行雄(社外取締役)	(株)あさひ銀行(現 (株)りそな銀行)頭取を経てオリックス(株)取締役副会長兼(株)TDK取締役
松井和明(社外監査役) * 常勤	(株)富士銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)、(株)ジャックス 常務取締役を経て平成16年6月当社監査役就任
小林稔忠(社外監査役)	東京証券取引所、日本勧業角丸証券(株)(現 みずほインベスターズ)公開引受部長、 (株)日本ソフトバンク(現 ソフトバンク(株))常務取締役を経て平成16年9月当社監査役就任
与謝野 肇(社外監査役)	(株)日本興業銀行(現 (株)みずほコーポレート銀行)、興銀インベストメント(株) 取締役社長、みずほキャピタル(株) 専務取締役を経て平成16年9月当社監査役就任
高橋通(社外監査役)	キヤノンカメラ(株)、キヤノン(株) 取締役、Canon USA Inc. Executive Vice President & CTO, Canon Development Americas Inc. President & CEO を経て平成18年9月当社監査役就任

# 株主構成

(2010.12.31現在)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,272	60.4
パナソニック電工株式会社	14,400	10.2
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	3,555	2.5
荻野 司	2,776	2.0
サン・クロレラ販売株式会社	1,550	1.1
その他	33,515	23.8
合計	141,068	100.00

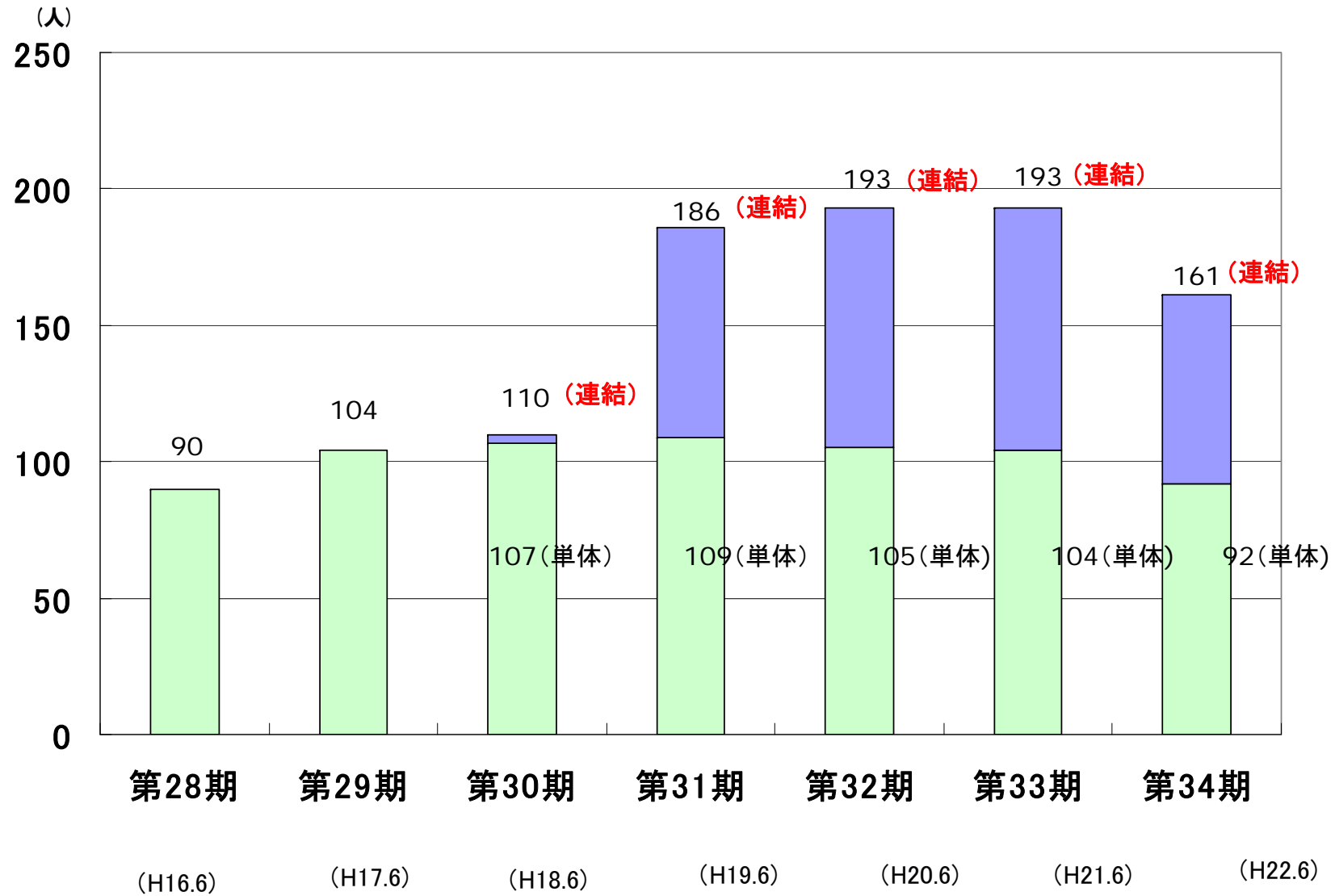
※上記には当社所有の自己株式1,400株は含まれておりません。  
※2010年(平成22年)7月、株式譲渡により、親会社及び筆頭株主が株式会社  
インターネット総合研究所からオリックス株式会社へ異動いたしました。  
※出資比率は議決権数の比率を記載しております。

# 事業セグメントと主な事業内容

事業名称	主な事業内容	キーワード
<b>電子機器事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ATM(オートテラーマシン)や複写機に内蔵されている主要モジュールシステム 開発・生產業務</li> <li>● カーシェアリング車載システム等のサーバーと端末のセットソリューションサービスの開発・生產業務</li> <li>● テレマティクスサービスのサーバーと端末のセットソリューションの開発・生產業務</li> <li>● ハードウェア設計、ファームウェア設計、量産化設計から生産までを一貫して実施</li> <li>● 上記テクノロジーを融合させた新技術の開発業務</li> </ul>	セキュリティモジュール スキャナセンサ カーシェアリング テレマティクスサービス
<b>モバイル・ユビキタス事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 携帯電話端末評価業務</li> <li>● IPネットワーク(有線・無線)設計・構築・運用支援業務</li> <li>● 次世代ネットワーキングテクノロジー「IPv6」に関する技術開発業務</li> <li>● Web2.0テクノロジーを活用したWeb2.0ソリューション事業</li> <li>● 省エネ対応ソリューション開発</li> <li>● 組み込み型ソフトウェアの受託開発およびシステム開発等の人材派遣</li> </ul>	ユーザーエクスペリエンス WiMAX IPv6 SNS、マッシュアップGIS 省エネ 金融システム、医療システム



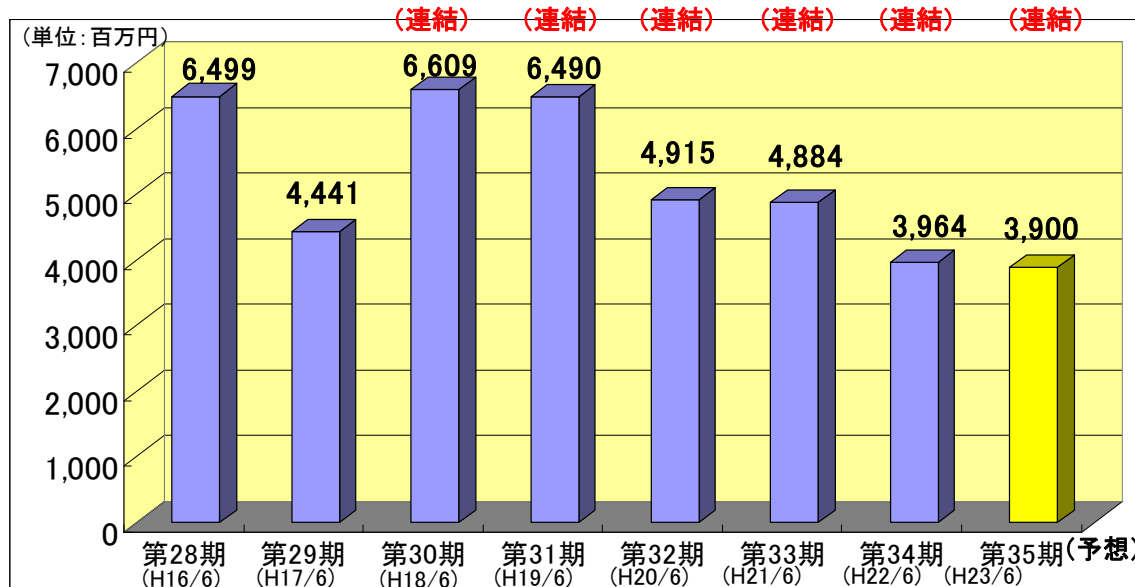
# 人員推移



注) 出向者、派遣、アルバイトスタッフなどは除いた人数となっております。

- 当社業績について

# 過去業績推移



## 業績トピックス

第28期: 売上高の半分以上はシャープ向け映像エンジン。

第29期: シャープ向け売上高大幅減少し、前期比売上高▲20億円となるも、高利益率案件確保し営業利益は前期比増加。

第30期: WiMAX支援事業により大幅増収増益。

第31期: WiMAX支援事業大幅減少するも、センサー事業(ATM等)・映像事業(UBIRIS)好調で売上高ほぼ横ばい。

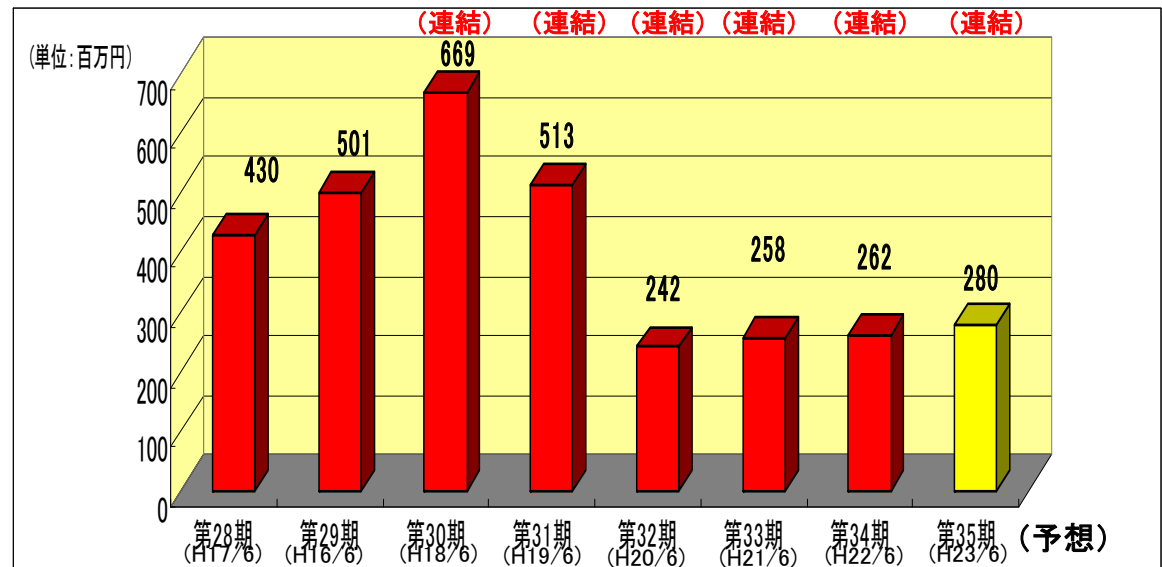
第32期: センサー事業大幅減少により前期比大幅減収減益。

第33期: モバイル事業・UBIRIS受注が減少したが、パナソニック電工からの受注増加、オリックス自動車向けカーシェア車載機販売開始により営業利益前期比微増。

第34期: モバイル事業、子会社の受注減及び電子機器既存量産品が減収となるも、コスト削減及び自社開発製品で営業利益は前期比微増

## 売上高

## 営業利益



※第30期(H18/6)より連結開始

# 第34期(平成22年6月期)決算概要

(単位:百万円)	第34期 (H22.6) 売上	前年 売上実績	前年比 (増減)	前年比 (%)	第34期 (H22.6) 営業利益	前年 営業利益 実績	前年比 (増減)	前年比 (%)
電子機器事業	1,959	2,383	△424	△17.8	330	157	172	109.6
モバイル・ユビキタ ス事業	2,004	2,500	△495	△19.8	275	500	△224	△44.9
共通費	—	—	—	—	△342	△399	57	14.3
合計	3,964	4,884	△920	△18.8	262	258	4	1.8

## ■セグメント別トピック

### 電子機器事業

- ・エレクトロニクス業界不振による影響を受け、主力製品の販売が減少
- ・業務効率化と仕入コストや外部委託費用の大幅削減、効率的な人員配置を実施
- ・オリックス自動車向けカーシェアリング車載システム開発、販売
- ・今後は、既存事業の継続とサーバーと端末を組み合わせた自社ソリューションサービスの立ち上げに注力

### モバイル・ユビキタス事業

- ・携帯電話評価業務は、新規市場投入端末減少により売上減
- ・パナソニック電工との取引は順調に推移
- ・総務省公募案件「固定無線システムに関する調査検討」や独立行政法人情報処理推進機構(IPA)委託調査等を実施
- ・自社開発製品として「BX-Office」を進化させた、SaaSタイプの「UBITEQ-G-SERVER」、「UBITEQ-G-PILOT」の提供を開始

# 第35期(平成23年6月期)第2四半期決算概要

(単位:百万円)	第35期2Q (H22.12) 売上	前年同期 売上実績	前年比 (増減)	前年比 (%)	第35期2Q (H22.12) 営業利益	前年 営業利益 実績	前年比 (増減)	前年比 (%)
電子機器事業	1,057	948	109	11.5	243	152	90	59.0
モバイル・ユビキタ ス事業	847	866	△19	△2.2	130	65	65	99.4
共通費	—	—	—	—	△185	△174	△10	5.8
合計	1,905	1,815	89	4.9	188	43	145	333.5

## ■セグメント別トピック

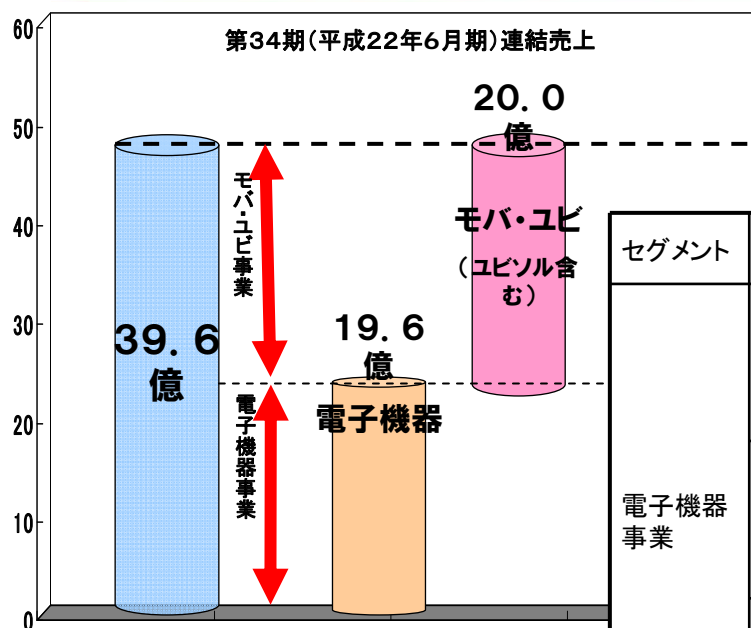
### 電子機器事業

- ・生体認証モジュールや紙幣鑑別ユニット等のセンシングモジュールの需要回復による受注の増加
- ・自社開発製品であるオリックス自動車(株)向けの車載機事業が堅調に推移
- ・仕入れコストや外部委託費用についても削減を継続

### モバイル・ユビキタス事業

- ・Ubiteq Green Serviceを中心とする省エネソリューション事業が着実に売上を獲得
- ・子会社の利益改善や全社的な業務効率化を推進、内部要員の有効活用によるコスト削減
- ・省エネソリューションについては更なる事業拡大のため、拡販チャネル開拓を推進
- ・追加機能開発やマーケティングにも引き続き積極投資

# ユビテック事業一覧(セグメント別)



セグメント		現在	将来
電子機器事業	画像 (センシング)	【顧客】フジノン、日立オムロンターミナルソリューションズ、富士通フロンテック他 【製品】スキャナセンサ、セキュリティモジュール、医療系センサモジュール	【展開】同業他社へ横展開 【製品】各種モジュールとネットワークの融合製品開発
	車載機端末	【顧客】オリックス自動車 【製品】カーシェアリング用車載端末システム、テレマティクスサービス	【展開】テレメトリング関連サービスへ 【製品】ユビキタス端末
	その他	【顧客】エクシング 【製品】カラオケ関連端末	【展開】機器メーカーへ 【製品】高速化、高精細化
モバイル・ユビキタス事業	モバイル	【顧客】ソフトバンクモバイル 【サービス】携帯電話端末総合評価	【展開】携帯電話キャリアへ 【サービス】情報端末系
	ユビキタス	【顧客】パナソニック電工、SBI、日本医師会、総務省、IPA 他 【サービス】ネットワークおよびインフラの設計と構築(有線・無線)	【展開】CATV、住宅・不動産産業、テナントオフィスへ 【サービス】次世代ネットワーク、Web2.0、省エネ
子会社	ユビテックソリューションズ(ユビソル)	【顧客】アロカ、日本電子、日本無線 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発	【展開】医療、通信メーカーへ 【サービス】機器組込みソフトウェア開発、業務用アプリケーション開発

# 貸借対照表(B/S)サマリー推移

(単位: 百万円)	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期2Q
流動資産	3,803	3,477	3,411	3,519	3,671
うち現金及び預金	1,808	1,507	1,876	2,273	2,355
うち受取手形及び売掛金	1,564	1,457	1,121	1,003	1,099
固定資産	448	439	385	312	299
うち有形固定資産	101	99	80	83	87
うち無形固定資産	82	67	50	32	26
うち投資その他資産	264	272	255	196	185
資産合計	4,251	3,917	3,796	3,832	3,971
流動負債	1,238	906	706	643	714
うち支払手形及び買掛金	894	636	429	441	506
うち短期借入金	6	—	—	—	—
固定負債	90	77	79	66	64
うち長期借入金、社債等	7	—	—	—	—
負債合計	1,328	984	785	709	779
資本金	851	853	853	860	861
純資産合計	2,922	2,933	3,011	3,122	3,191

資金残高  
は高水準

借り入れ  
ゼロ

自己資本比率79.4%。高水準を維持。

# キャッシュ・フロー(C/F)サマリー

(単位: 百万円)	第31期	第32期	第33期	第34期	第35期2Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	184	△90	402	419	135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△255	△131	4	△42	△1,062
財務活動によるキャッシュ・フロー	△252	△88	△34	△20	△33
現金及び現金同等物の増減額	△317	△301	368	354	△968
現金及び現金同等物の期首残高	2,125	1,808	1,507	1,876	2,193
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,808	1,507	1,876	2,193	1,225

3ヶ月超の  
大口定期を  
預け入れ



## 平成23年(2011年)

2011/2/3 IPv4アドレスの中央組織から「最後の配分」インターネット最大の「節分」～IPv4 枯渇に寄せて～

## 平成22年(2010年)

2010/12/8 BX-Officeが「大阪大学CMCグリーンITプロジェクト」に採用 ～マイクロソフト社システムと連携しエネルギー消費の可視化実現

2010/12/2 ユビテック、SaaS型省エネサービスを提供開始～個別自動制御で新しい形のオフィス省エネを実現～

2010/10/5 ユビテック発スマートグリッドを変革する環境ソリューションの提言～「スマートグリッドジャパン」に協賛～

2010/8/30 IPA、「デジタル複合機の脆弱性に関する調査報告書」を一般公開～ユビテックが多機能化するデジタル複合機に潜む脆弱性の多角的な調査に協力～

2010/7/21 ユビテック、省エネソリューション「BX-Office」を進化させ「SaaS TYPE」を提供開始～導入コスト削減と多拠点管理を実現～

2010/7/8 オリックスによるユビテック株式の取得について ～環境事業における技術革新・商品開発を推進～

2010/5/27 ユビテックとナノオプトニクス・エナジー、「Green Plant」構想で業務提携～鳥取県米子市工場へ、先進的な環境エネルギー計測・制御システムを導入～

2010/5/11 東大グリーンICTプロジェクトが東京大学第二本部棟のエネルギー見える化システムを構築

2010/4/15 IPA、「国内外の自動車の情報セキュリティ動向と意識向上策に関する調査報告書」を一般公開 ～ユビテックが自動車の情報セキュリティの現状と課題の調査に協力～

# 株価推移 (2011/2/8までのチャート)



2005年12月20日	1株→2株の株式分割
2006年2月20日	立会外分売 827株
2006年4月7日	ブロックトレード 500株
2006年10月3日・5日	ブロックトレード 2,500株
2007年2月23日	自己株式取得完了(買付株式数:350株 買付総額:75,474,000円)
2009年4月1日	1株→4株の株式分割

## 1株当たり配当金

平成21年6月期配当実績	250円	(平成21年4月1日 株式4分割実施)
平成22年6月期配当実績	250円	
平成23年6月期配当予想	250円	

配当利回り 0.53% (平成23年2月8日 株価:47,100円)  
配当性向 28.3% (平成22年6月期)

### 【基本方針】

下記2点をバランスを取りながら実施

- ①企業価値の最大化に向けた内部留保の確保  
→事業拡大、成長投資(人材への投資、設備投資等)
- ②株主の皆様への還元

- 当社事業概要と今後の展開

## UBITEQ BE GREEN

～ユビテックはBE GREENソリューションを進化させ、

新しくUBITEQ BE GREEN SOLUTIONとして提供を開始します～

- 「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」とは、地球環境保全に向け、企業の課題を解決するユビテック新環境ソリューションです。
- 当社のユビキタス技術を駆使し、「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」の実現を支援します。



### UBITEQ ECO PROJECT

当社製品を活用した「省エネ・CO2削減」「安心・安全」「業務効率化」環境を実現する「UBITEQ ECO PROJECT」活動を全社的に推進しております。

また「UBITEQ ECO PROJECT」活動の推進により、チャレンジ25参加法人としての啓蒙活動も積極的に行っております。



#### ●UBITEQ BE GREEN SOLUTION製品

##### ●Ubiteq Green Service製品

- BX-Office
- BX-Info
- BX-Energy
- BX-Room Viewer
- CFMS by BX-Office
- UBITEQ-G-SERVER
- UBITEQ-G-PILOT
- CFMS-II
- Ubiteq G Service

##### ●カーソリューション製品

- カーシェアリング車載機
- テレマティクスサービス

「UBITEQ BE GREEN SOLUTION」の提供を通じて、環境に優しい持続可能な社会（循環型社会）作りに貢献していきます。

# カーソリューション事業

# カーソリューション事業の歩み

2008

2009

2010

カーシェアリング：車載端末（車種限定）



テレマティクスサービス：  
車載端末（国産普通車対応）  
+サーバ/WEB=システム全ての提供を実現



オリックス自動車様WEBサイト



EVエコドライブシステム開発・実証



カーシェアとテレマティクスの融合  
端末からWEBまで統合したASPサー  
ビスの提供へ

グリーンICT  
プラットフォーム

# テレマティクスサービス

## テレマティクスサービスとは

テレマティクスとは通信モジュール(通信機器)を搭載した車載機をいいます。  
テレマティクスサービスはこの車載機で取得した車両情報を通信回線を通じて管理サーバーに取得、蓄積します。  
蓄積したデータを活用して、インターネットから運行管理に有効な情報をお客様に提供するサービスです。

ユビテックはオリックス自動車(株)の  
テレマティクスサービスサイトの構築・運用  
を提供しています。

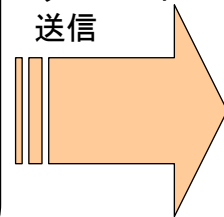


車載機を搭載した自動車は下記の情報を取得できます。

- 走行距離
- 車速情報
- 燃費情報
- 位置情報

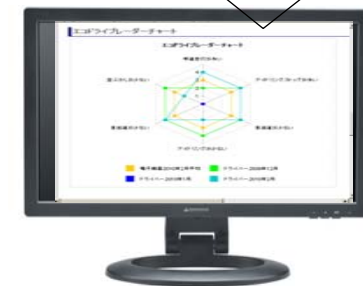
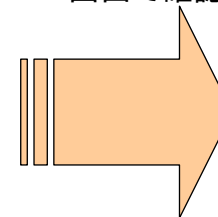
これらの情報を通信回線を通じて管理サーバーに送信されます。

取得情報を  
サーバーに  
送信



管理サーバー

運行管理情報を  
WEB画面で確認



WEB画面から、  
・運転日報(運転者の運転動向の確認)  
・車両情報(燃費、急ブレーキなど)  
・車両運行情報(配車計画の確認)  
が確認できます。

## テレマティクスサービス特長

- 車両を効率的に利用できる
- 安全・安心な運転を遵守させられる
- 燃費を向上し、ECOを実現できる
- 運転日報等を自動化できる

- ドライバーの運転行動を各種データで「見える化」
- 「コンプライアンス」「環境」「安全」のリスク軽減
- ガバナンスの強化、CSRの向上を図ることができる



# 環境エネルギー事業

# 《実績》 グリーン東大工学部プロジェクト

- 2008年6月に産官学が協力し、地球環境保全と活動環境改善を目的に研究開発活動開始
- 都内最大のCO2排出事業所である「東大本郷キャンパス工学部新2号館」を実証実験の場とし、最新の省エネ、環境対策技術の統合化と評価を実施

＜2009年10月に本活動内容が評価され、二つの賞を受賞＞



グリーンIT推進協議会主催  
グリーンITアワード2009  
審査員特別賞受賞



グリーンITユーザーアワード  
プロジェクト賞

ユビテックでは、発足当時より当プロジェクトに参画し、BX-Officeによる「照明用人感センサをマルチ活用した自動設備制御と稼動状況の「見える化」について実証実験を実施中

## グリーン東大工学部プロジェクトでのITによる 省エネ実験の一つとして「見える化」実験を実施

### 課題

- ① 予約されていない時間帯の勝手な施設利用
  - ② 施設利用後の照明・空調の消し忘れ
- ⇒ 無駄な利用の排除が課題

### 従来

- ① 各部屋の照明や空調の稼働状況を確認する手段がない
  - ② 施設に人が居るか把握不可能
- ⇒ 設備毎のタイマー設定(既定時間運用)  
施設管理担当が見回る方法で対応の

不満!

無駄の実態を把握し、データの見える化を  
実現するため、BE GREENソリューションを導入

実施方法

BX-Officeの導入

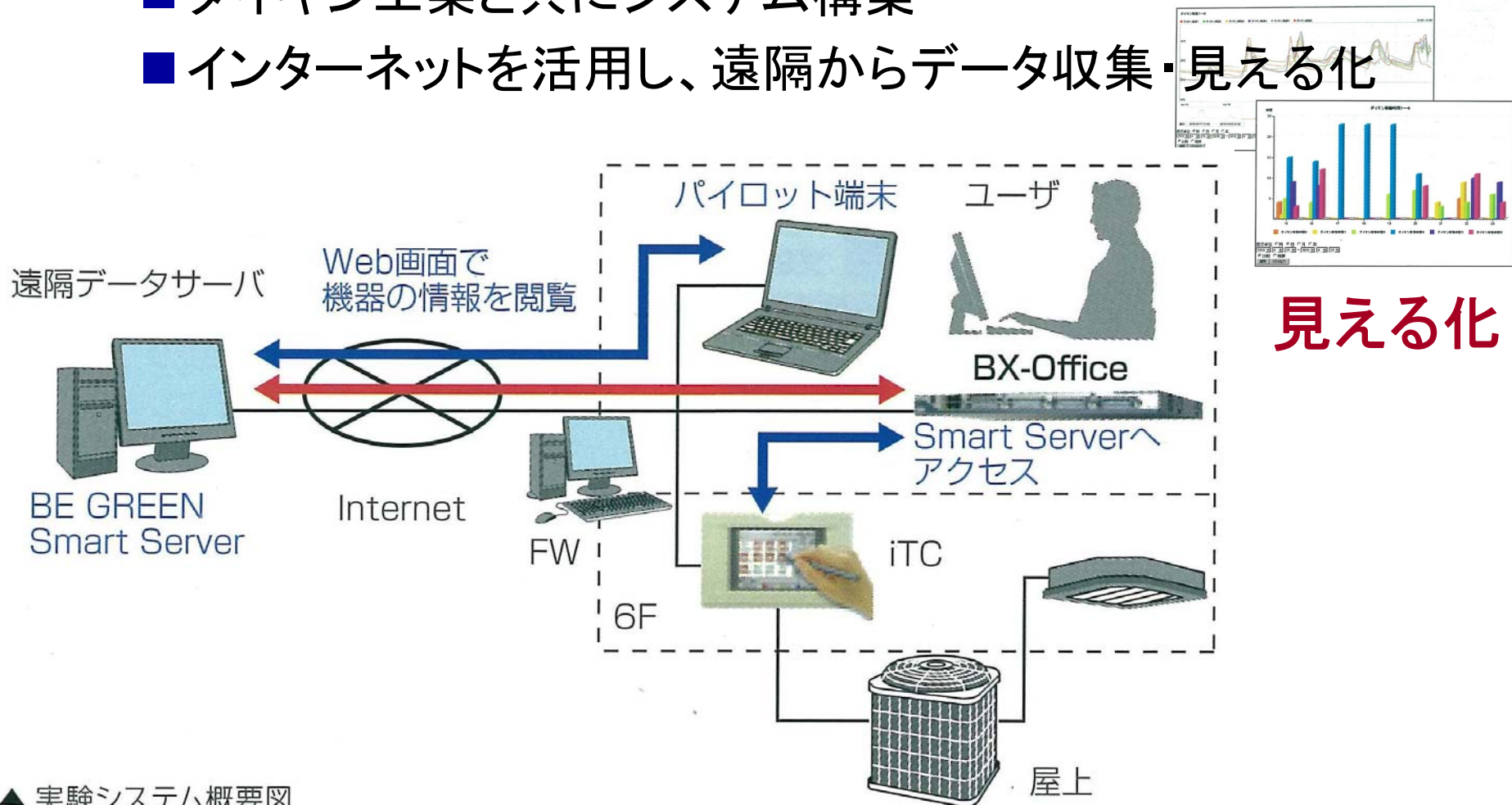
- ①照明制御機能と、予約システムからの予約情報取得
- ②BACnet/WSでの空調制御

一ヶ月間のモニタリングを実施

- ・不必要な照明・空調の使用
- ・会議室管理ルールを無視した施設利用

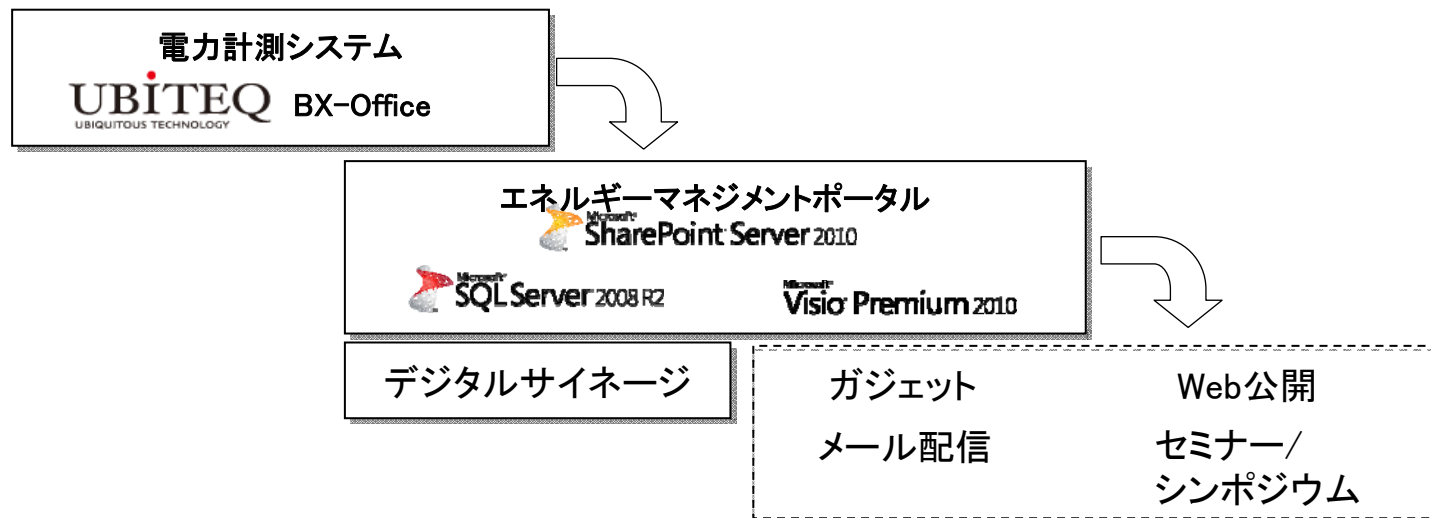
⇒「無駄」の見える化

- 東京大学第二本部棟のエネルギー見える化システム
  - ダイキン工業と共にシステム構築
  - インターネットを活用し、遠隔からデータ収集・見える化



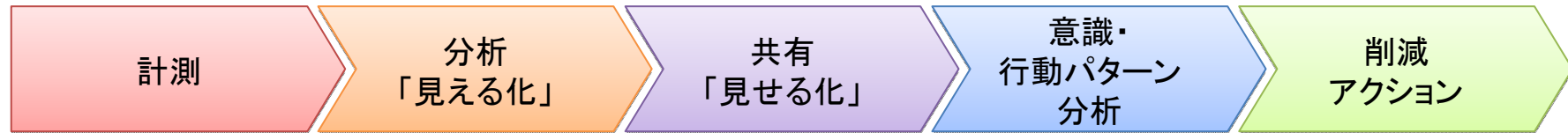
▲ 実験システム概要図

- 大阪大学のサイバーメディアセンターとマイクロソフト株式会社がITを活用し、大学におけるエネルギー消費の可視化に向けて開始した実証実験
- マイクロソフト社が当社の環境ソリューション製品であるBX-Officeを採用



- 電力消費データを収集、蓄積し、その電力消費データを分析
- 「見える化」で省エネ意識の向上

プロセス



内容

大阪大学サイバーメディアセンターのB1～7Fのフロアにエネルギーモニターを設置(合計85計測ポイント)。5Fは、部屋別、用途別の詳細分析のため、48計測ポイントを集中設置。BX-Officeが、既設の構内LANを活用して、各エネルギーモニターから10分周期で電力消費データを収集。

BX-Officeが収集した電力消費データを、Webサービスを通じて、データベース(SQL Server)に蓄積。物理的属性(照明、空調など)とともに、ユーザー属性(所属研究室、行動時間帯など)に基づいて、電力消費データを分析。

分析した電力消費データを、エネルギー消費可視化ポータル(SharePoint Server)上にグラフ表示。Visioサービスによって、フロアマップ上のデータ表示も可能。ガジェットを使って、教職員にアラートを送信。共用スペースのデジタルサイネージを通じて、学生に電力消費状況を告知。

ユーザー(教職員・学生)の意識、行動パターンの変化を研究。「ポータルサイトの閲覧をユーザーの自主性に任せた場合」、「デジタルサイネージによって電力消費量を公共の場に掲示した場合」、「メール等によって積極的に消費電力の削減を訴えた場合」等を比較。

実証実験の成果の学内での活用を推進するとともに、他の大学や企業でも展開できるように、Webやシンポジウム、セミナーなどを通じて普及。  
  
(将来的に)  
電力消費の傾向と行動パターンの分析から、各ユーザーにとって、最も効果的な削減方法を提示。

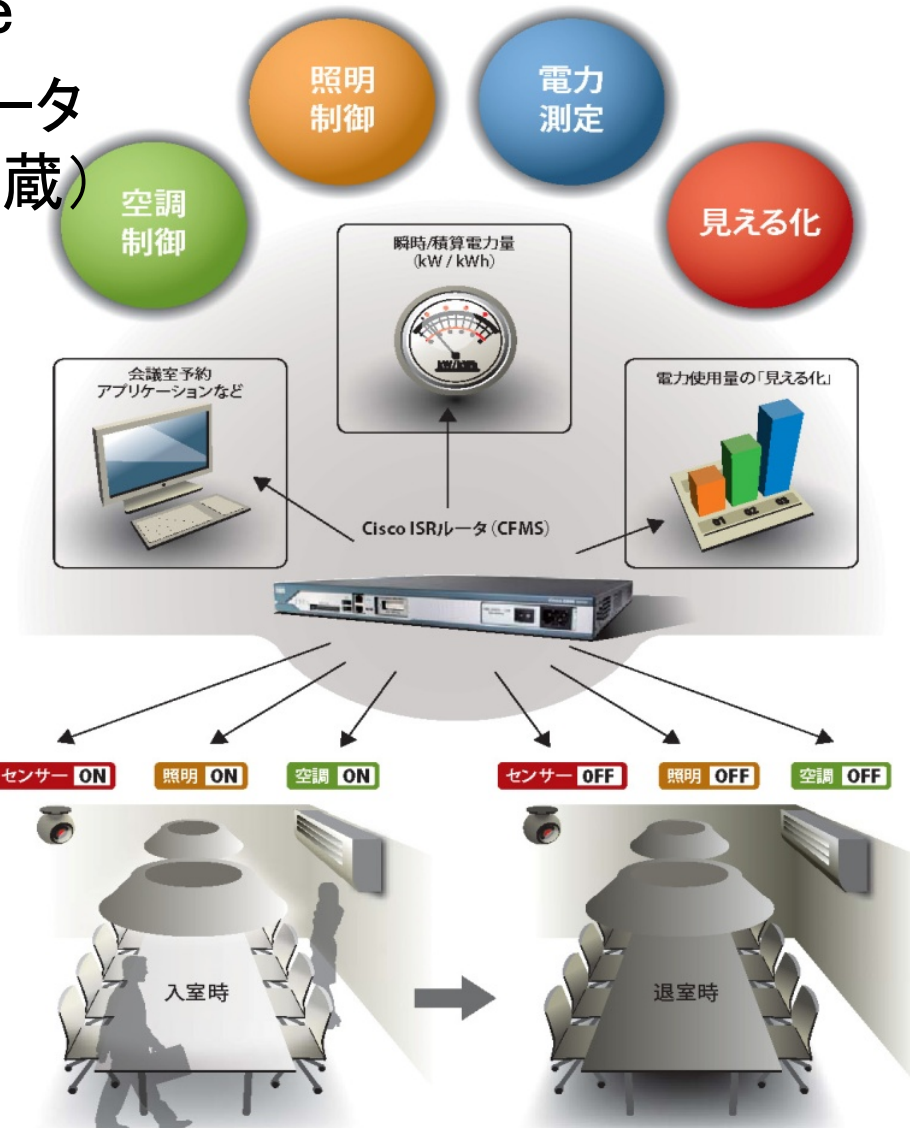


## ● UGS:Ubiteq Green Service

- プラットフォームにCiscoルータ (ISRシリーズ Cisco AXP内蔵) を選定

### 主要機能

- 照明・空調制御機能
- スケジュール連動
- 会議室の照明・空調稼働状況表示
- 会議室の予約状況、予約時間を見える化
- 電力計測器のログ取得・保存・集計
- 東京都環境確保条例報告書自動作成

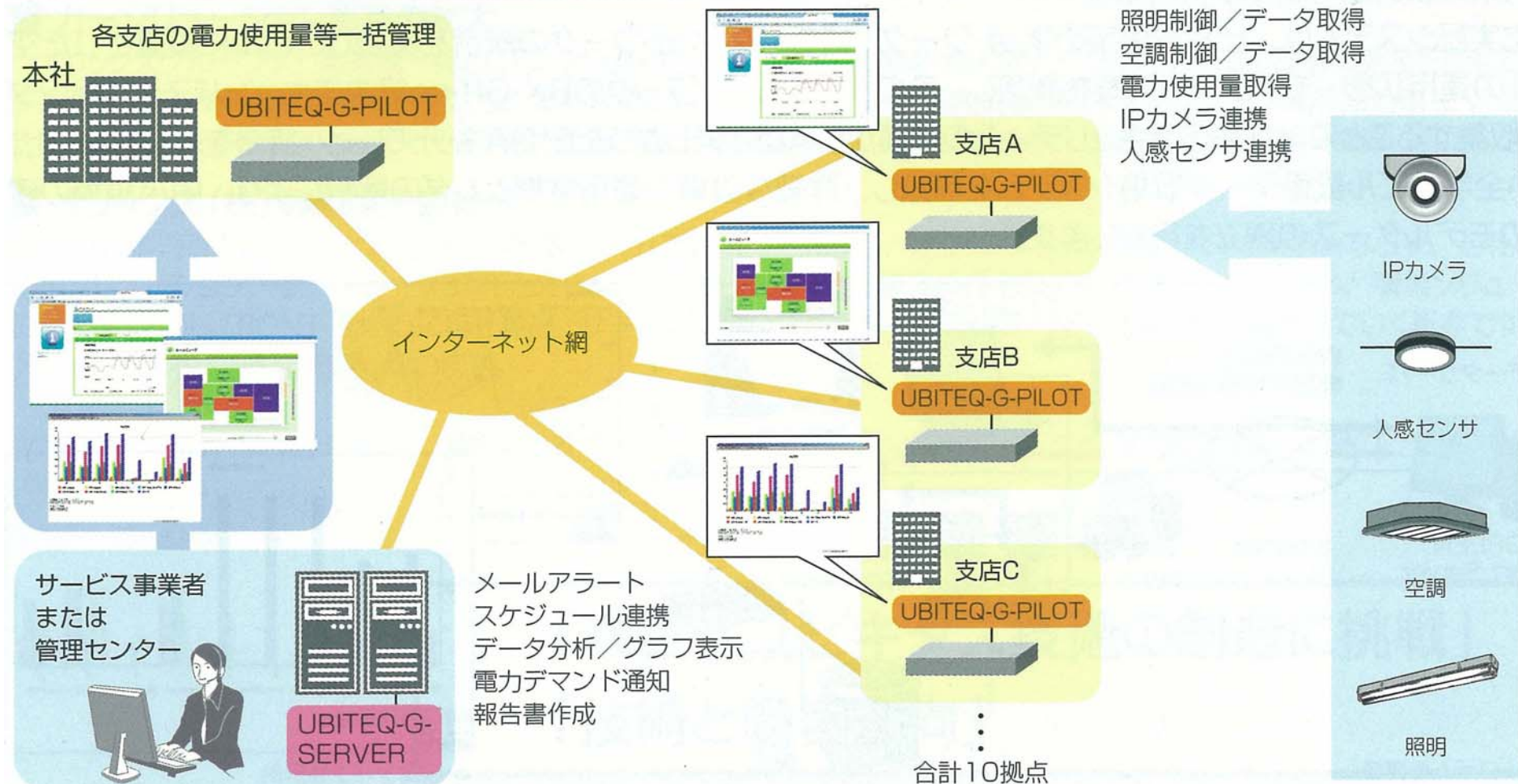




# UGS-II (CFMS-II) (2010年7月~)

## ● BX-OfficeをSaaS TYPEに進化

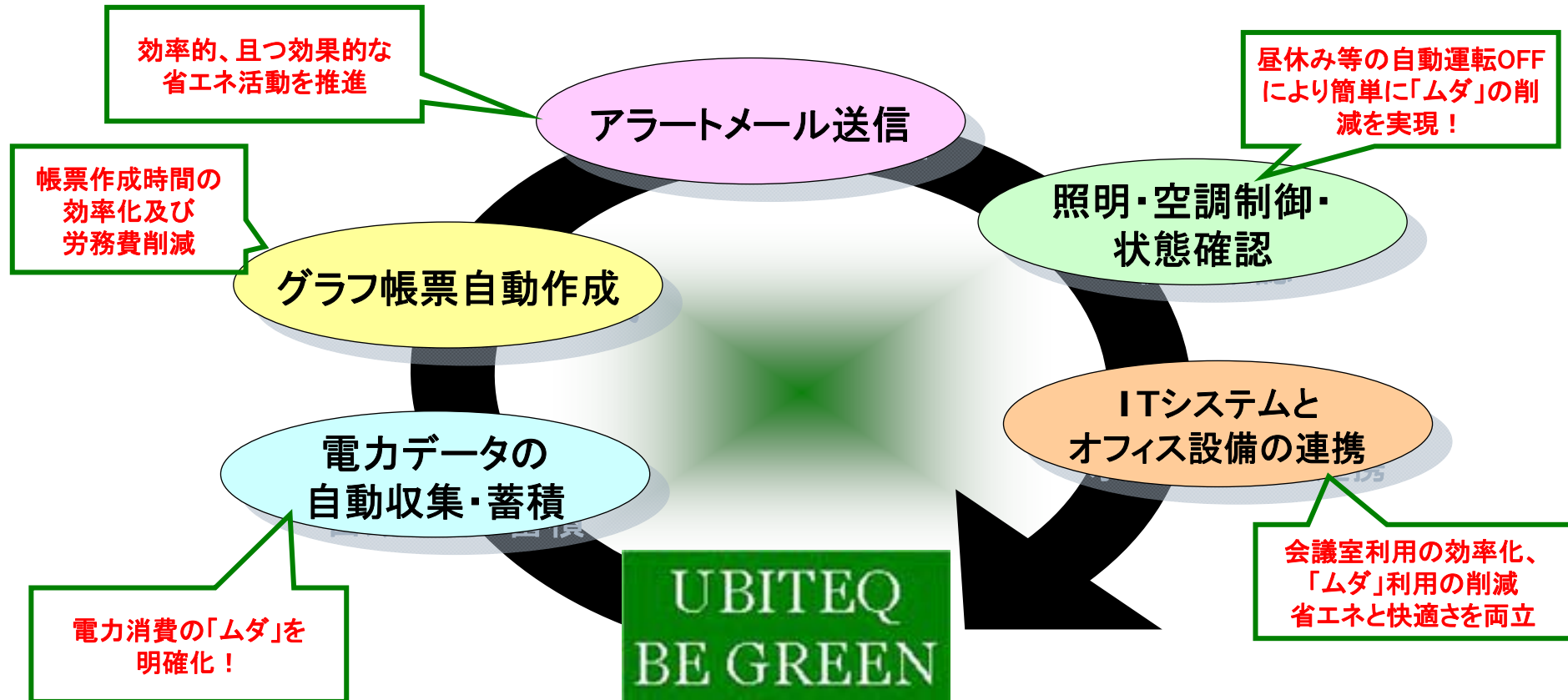
### ■ 多拠点管理や各拠点間での連携を可能に



## 《製品紹介》

### 「UBITEQ-G-SERVER」・「UBITEQ-G-PILOT」

1. 本社、支店などの電力データを自動的に収集、蓄積
  - ①収集データから様々なグラフや帳票を自動作成。省エネ報告書にも対応
  - ②電力消費が一定値を超えた場合に管理者からアラートメールを自動送信
2. 照明・空調設備の制御・状態確認(遠隔から確認、自動制御など)
3. ITシステムとオフィス設備の連携



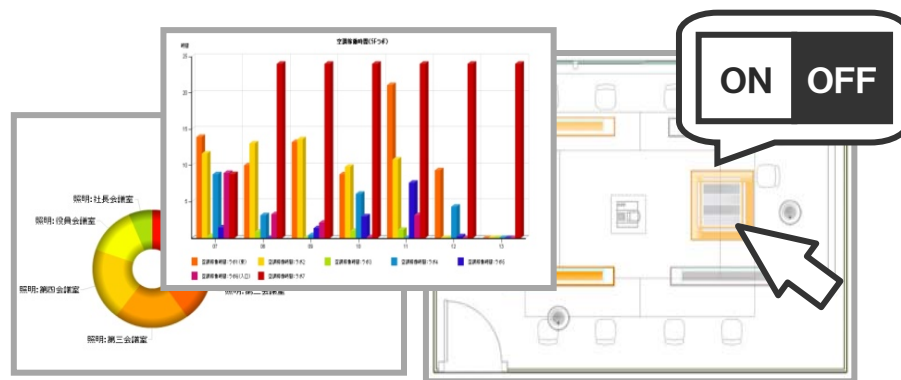
# UGS (Ubiteq Green Service) の特長

## 特長1: ITシステムとオフィス設備が簡単に連携できる



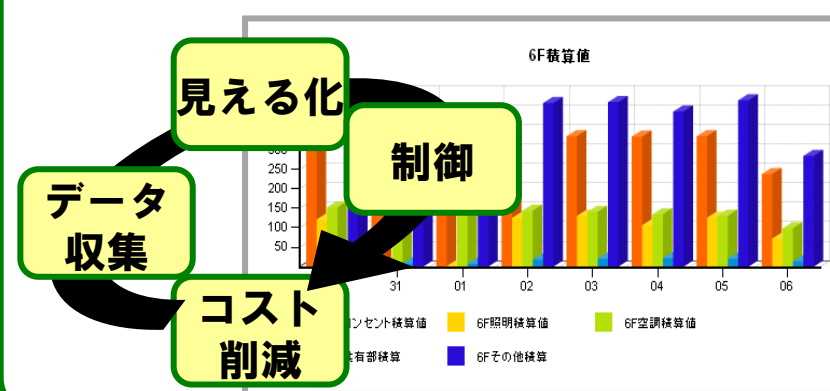
## 特長2: Webブラウザだから、誰でも簡単に操作できる

Webブラウザで誰でも簡単にグラフの参照、照明・空調のオン/オフが行えます。

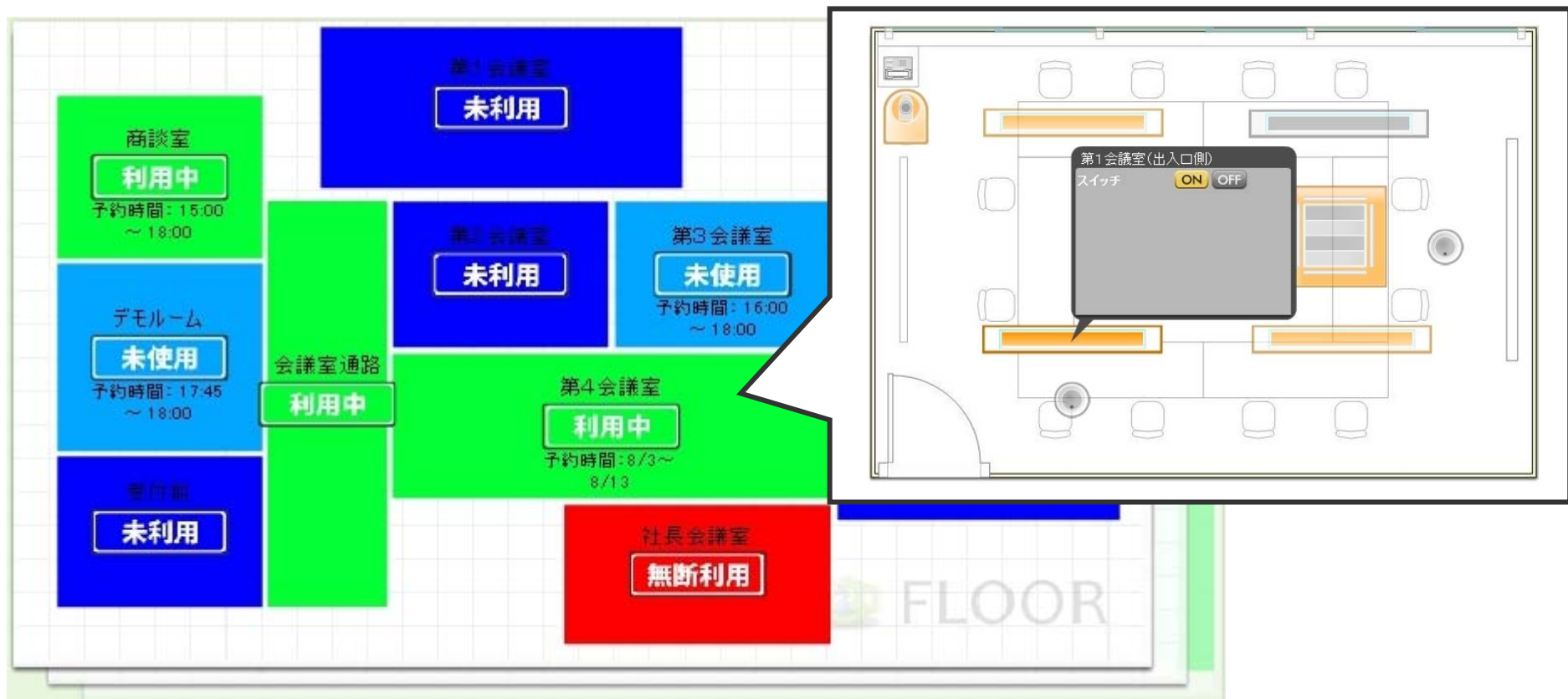


## 特長3: データ収集、グラフ表示、省エネ制御まで全自動

電力消費データの収集、様々なグラフの自動作成、照明・空調の省エネ制御まで全自動で行えます。

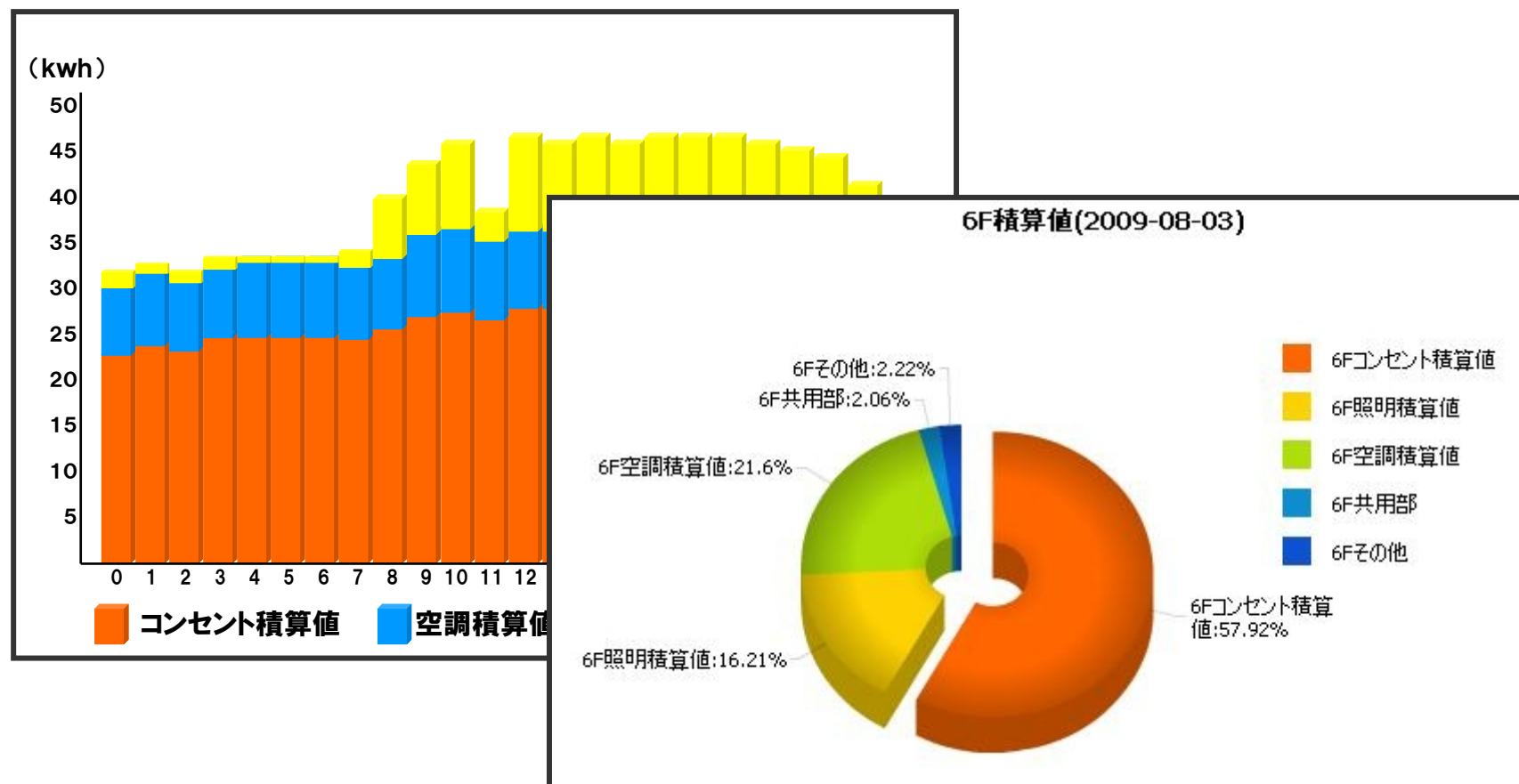


- スケジューラを連携させ、予定と実績を見える化
  - 会議利用10分前に空調運転開始。入室時に照明を点灯。
- Webブラウザで、自席から照明や空調をON/OFF



# 「エネルギー消費の見える化」

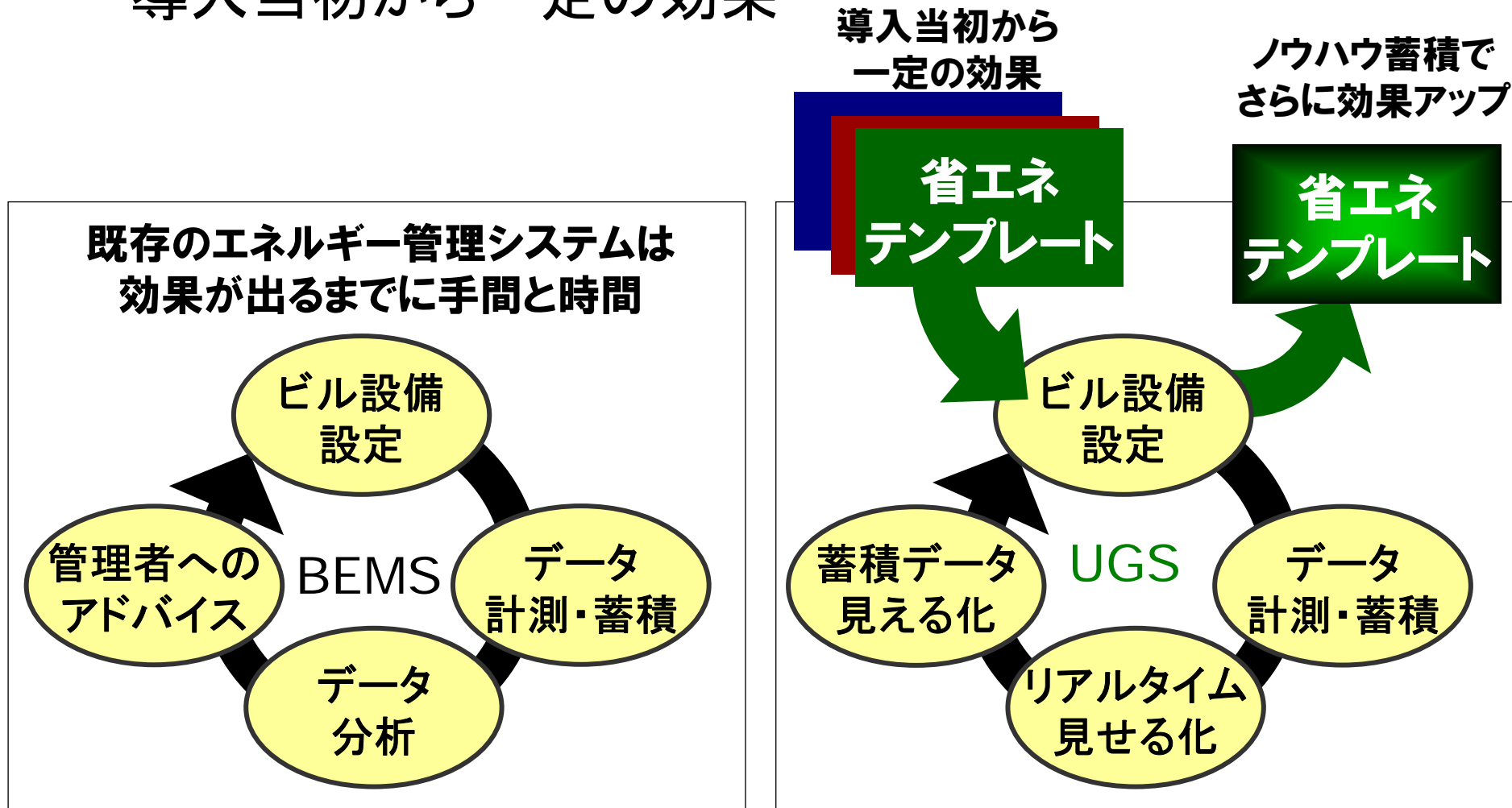
- 社員やお客様にオフィスのエネルギー消費を見せる化
  - リアルタイム表示だから、社員もやりたくなる省エネ



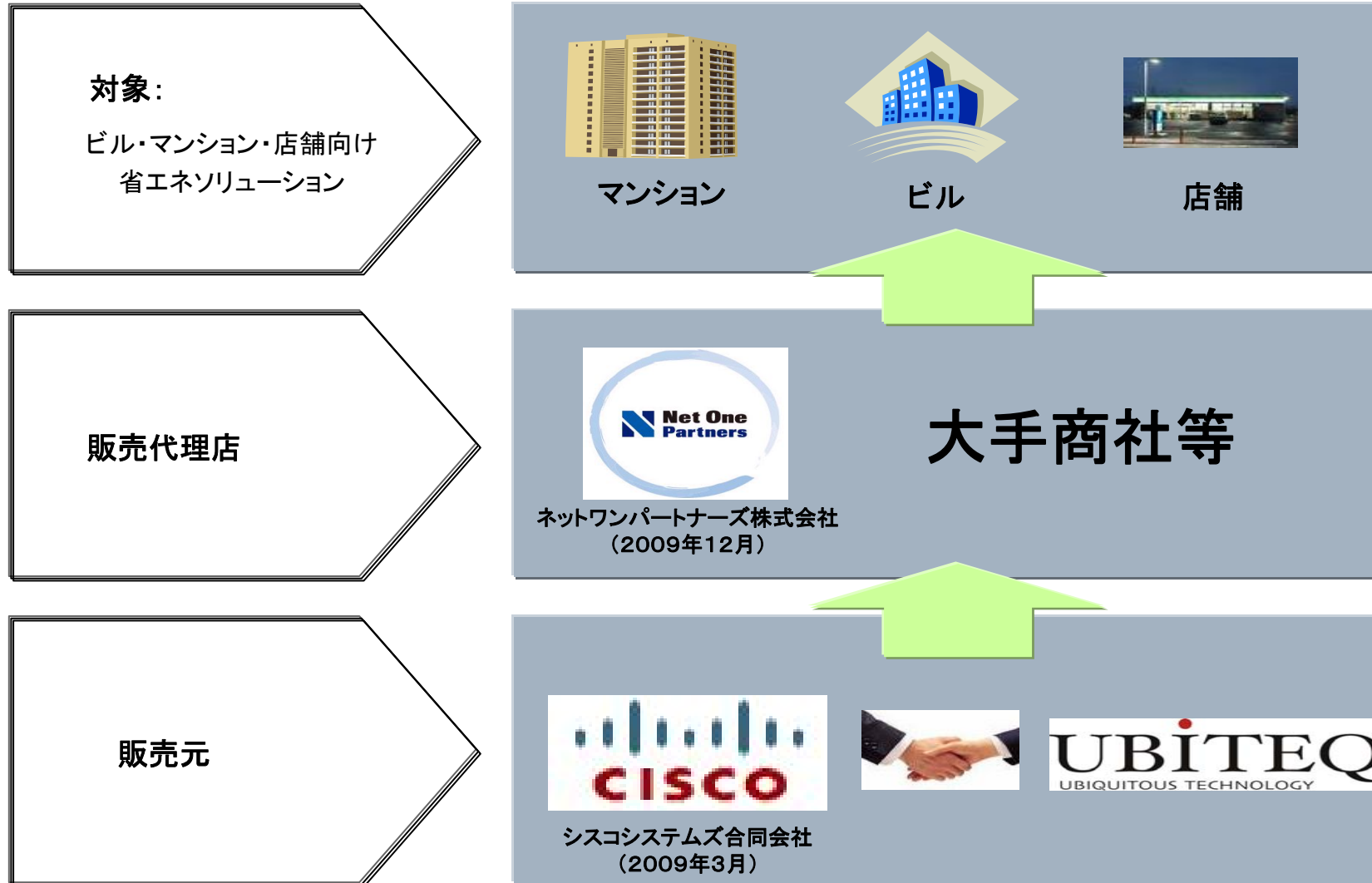


# 「個別自動制御」機能

- お客様のオフィスに合ったテンプレートの選択により、導入当初から一定の効果



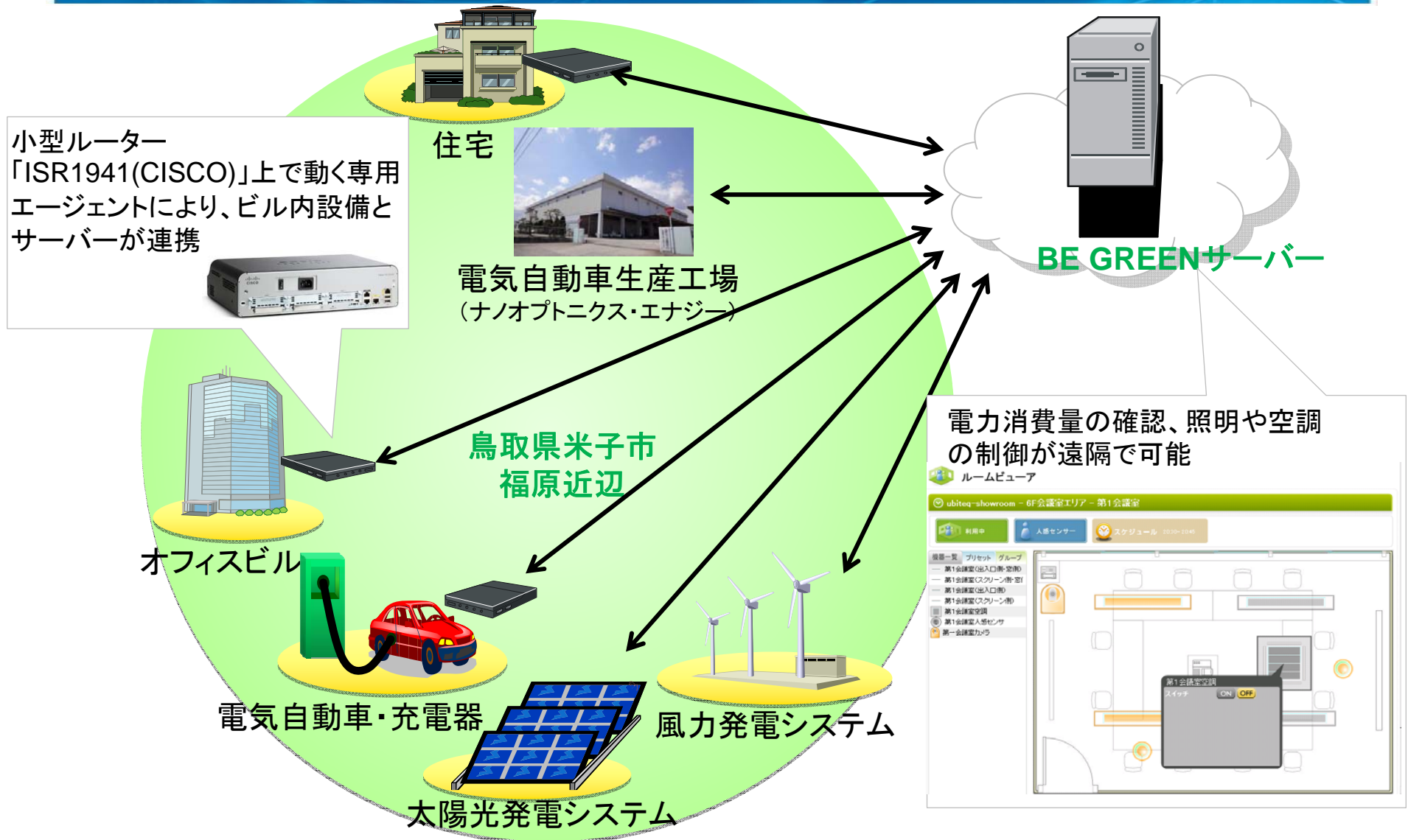
# 販売戦略



# 米子におけるマイクログリッド実証実験

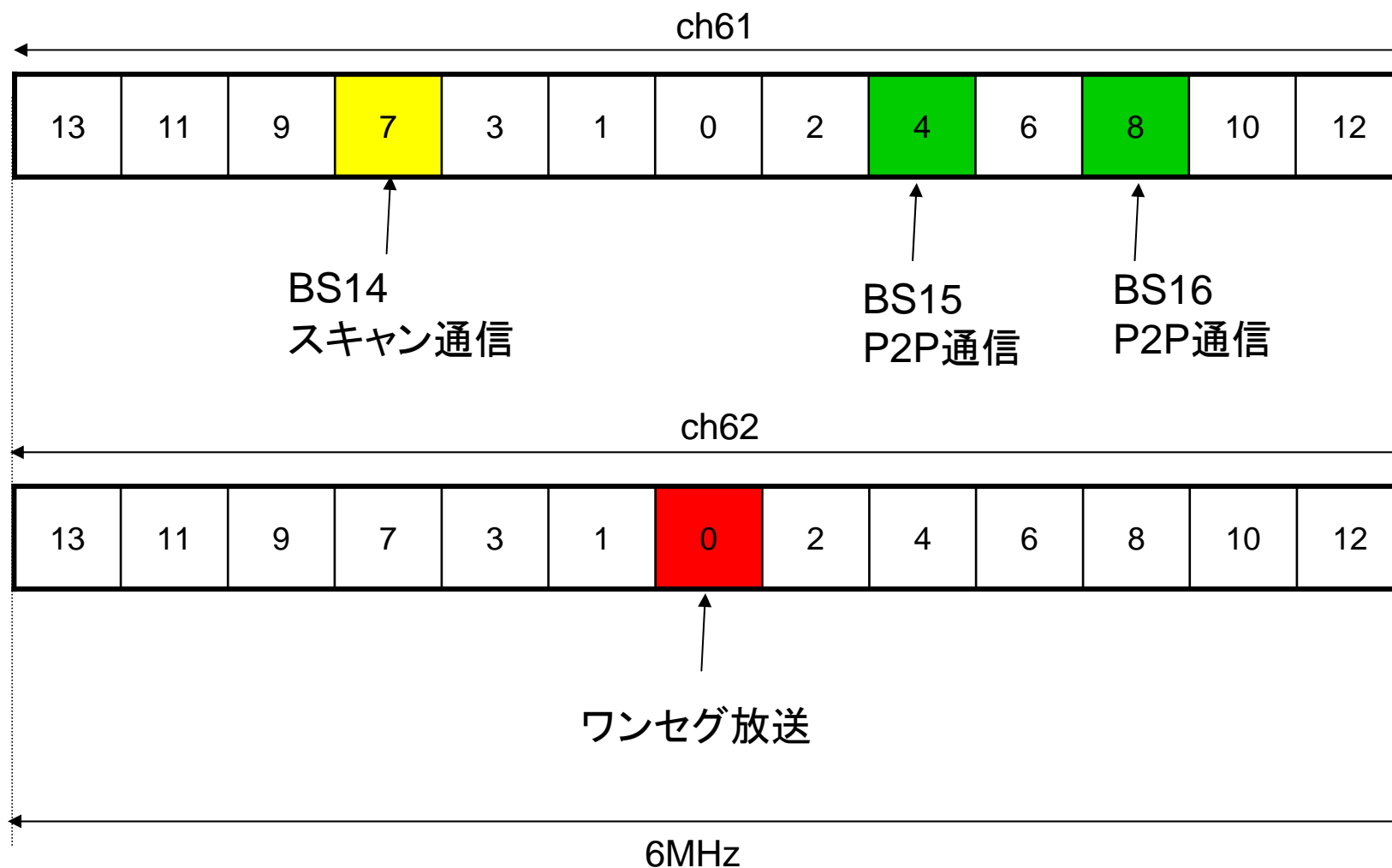


# GreenPlant構想でのマイクログリッドのご紹介



本件は、2010年6月23日付日経コンピュータにも特集をしていただきました。

- 主幹課：総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課
- 実施期間：2010年7月1日～2011(H23)年3月25日
- 実施項目(概要)
  - ホワイトスペースを活用して、地域の「エネルギー発生量/消費量状況」並びに「環境情報」を把握するセンサーネットワーク(=情報グリッド)の構築
  - 情報グリッド管理システムの構築
    - 環境センサー9箇所(山地・海洋・農地3分野)のWS無線接続
    - 地域施設・集団(オフィス)・個別(一般家庭)3分野をWS無線接続  
需要情報の測定・制御(エネルギー消費情報収集と削減制御)
    - 供給設備(太陽光発電と風力発電)2分野をWS無線接続  
供給情報の測定・制御(発電量情報収集と制御)
    - 収集した情報の見える化とワンセグ配信
  - ホワイトスペースにおける無線基盤の確立
    - 実フィールドでの実証実験(電波伝搬、アプリケーション動作実験)
    - ホワイトスペースを活用する無線基盤の性能測定



## ● 多拠点管理

### ■ 発電2拠点

- 太陽光発電
- 風力発電

### ■ 環境センサー9箇所

- 山地3箇所
- 農地3箇所
- 海辺3箇所

### ■ 需要3拠点

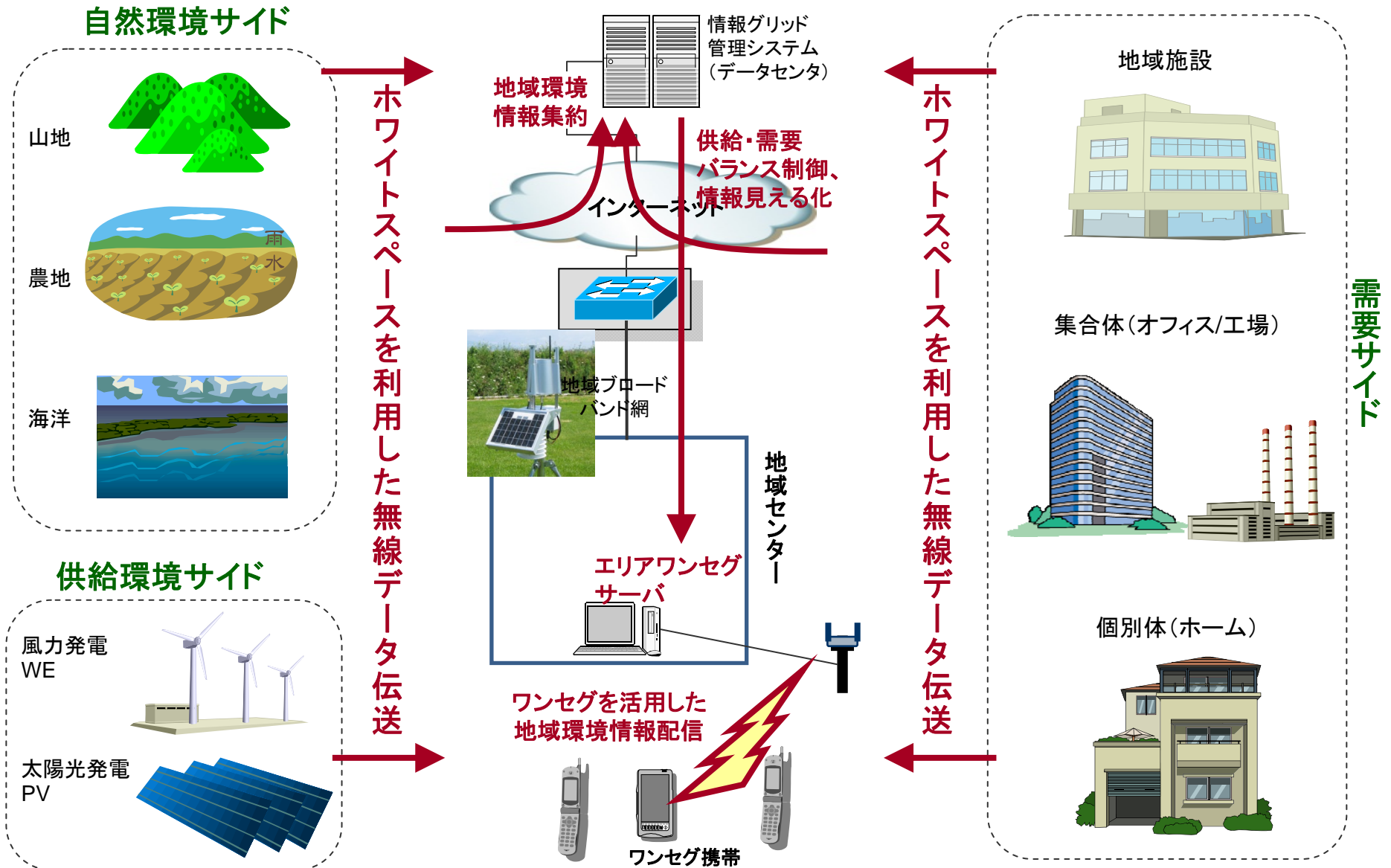
- 集合体 = 工場オフィス (ナノオプトニクス・エネルギー)
- 個別体 = 家庭
- 地域施設 = 淀江体育館

# 実証実験実施箇所



約5.4km                      約6.2km

# 米子情報グリッドのイメージ





# 参考：米子情報グリッドの将来

- 地域に根ざす、持続的マイクログリッドへの展開
- より多くのビル・工場の省エネ化 & マイクログリッド連携
- 家庭用太陽光パネルや電気自動車(EV)の普及・連携



# セミナー開催報告



## <スマートグリッドジャパン2010> 代表取締役 荻野 司が講演

- 2010年10月27日に科学技術館にて代表取締役 荻野 司が「日本のスマートグリッドを変革する環境オフィスソリューションの提言」と題して、講演を行いました。
- 新たな事業分野として注目されており、200名を越える来場者が講演を講聴していました。



### ● 講演内容

- 日本のエネルギー消費動向
- UBITEQ環境エネルギー事業紹介
- Ubiteq Green Serviceの紹介
- 米子マイクログリッドの紹介

ユビテックは、スマートグリッドジャパンに協賛致しました。

# ユビテックセミナー開催

- 2011年1月31日にユビテック本社でオープンセミナーを開催いたしました。
- 「見えてきた改正省エネ法の課題と対策」と題して、改正省エネ法や自治体条例についてご説明させて頂きました。



当社取締役野方孝之より改正省エネ法及び東京都条例についてのポイントを説明致しました。

- セミナー概要

- 改正省エネ法、ここがポイント
- デモとユースシーンで見る  
Ubiteq Green Service
- 省エネビルを更に省エネする

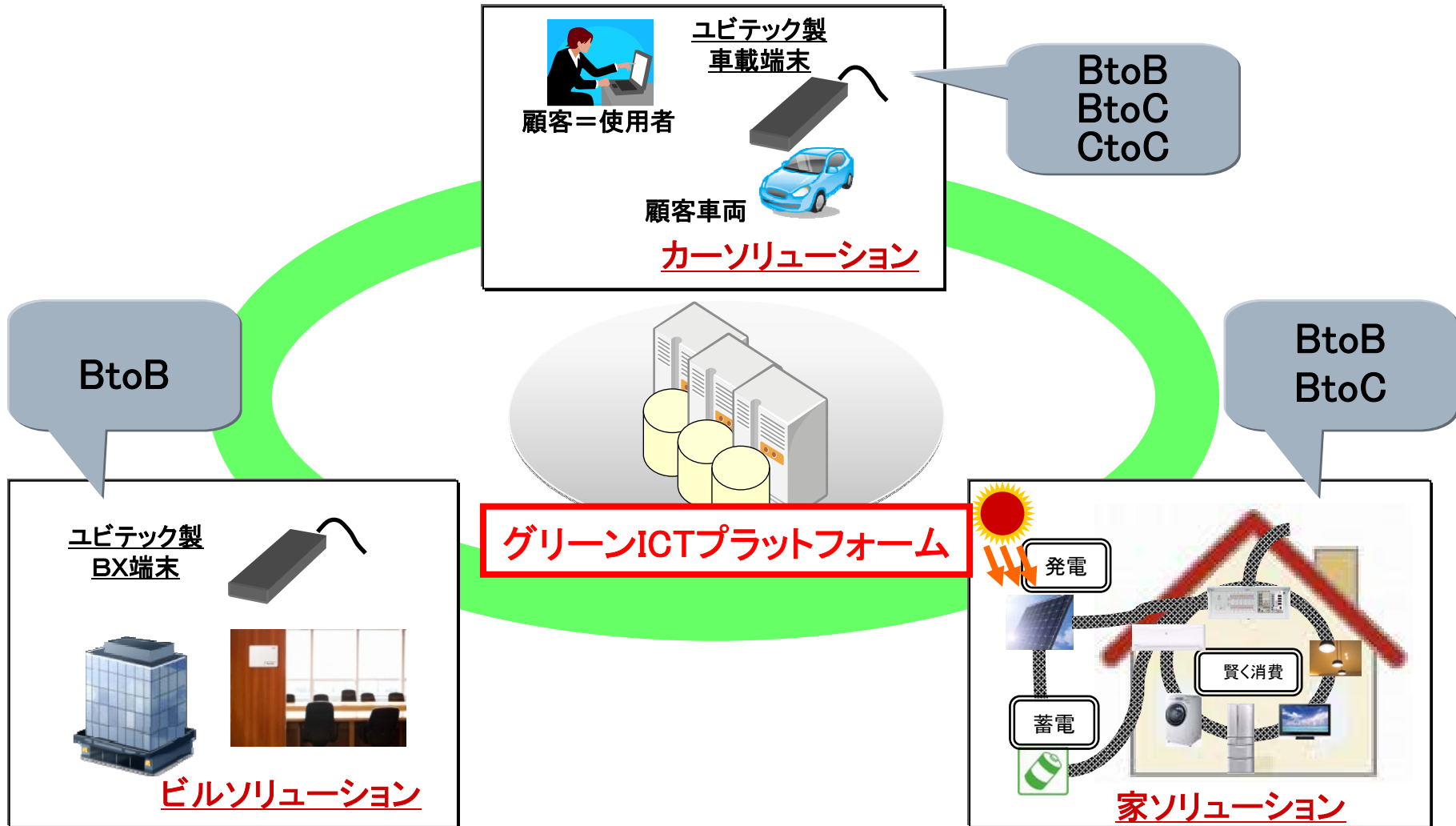


ユビテックセミナーは、今後定期的 to開催します。

# ユビキタス社会におけるユビテックが 目指す事業展開とは？

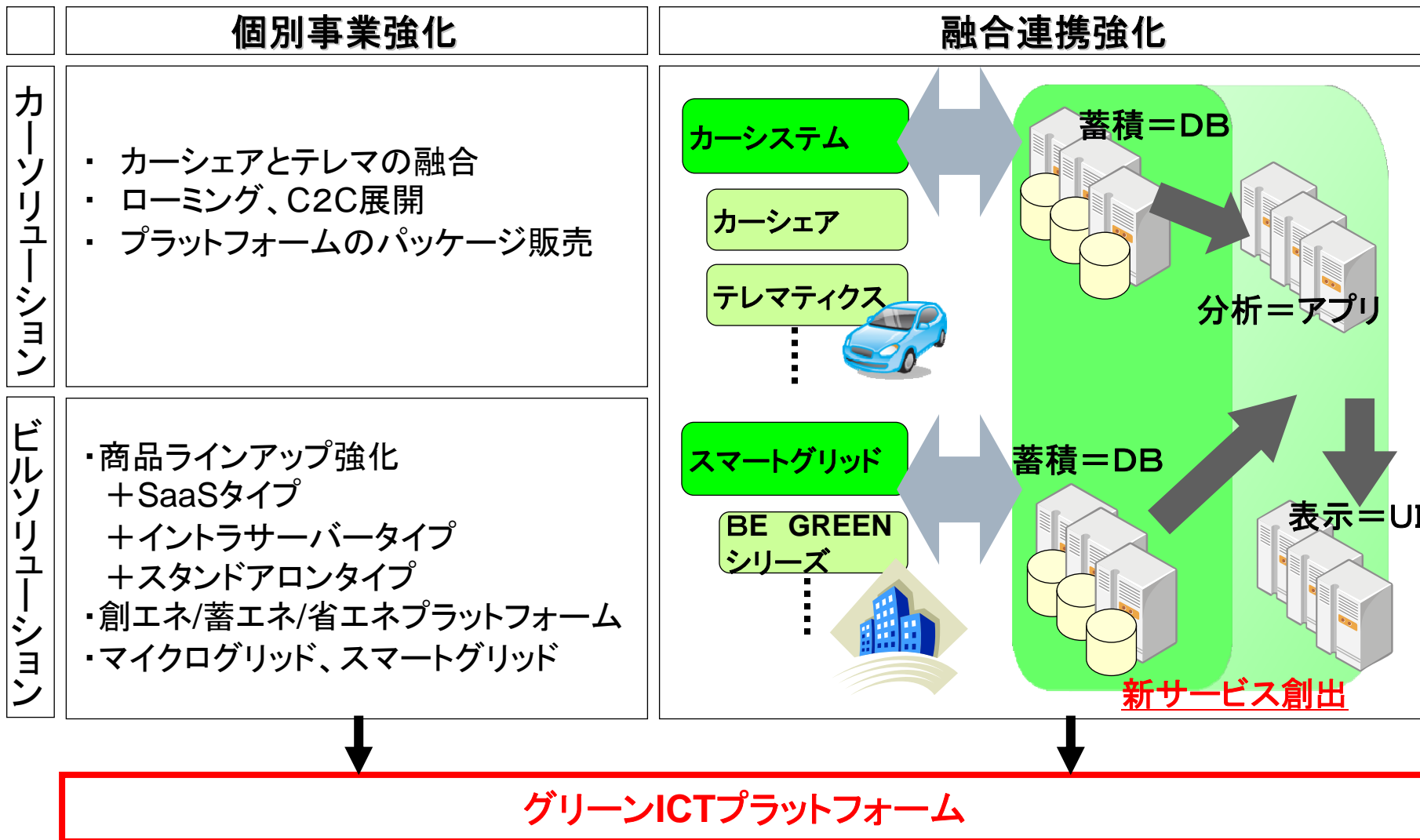
# ユビテックの創造するグリーンICTプラットフォーム

グリーンICTプラットフォームは、ネット端末 / ネットワーク / サーバーが空間(車、ビル、家)と個人や企業とを連携し、様々な情報を集め、新たな付加価値を創造する



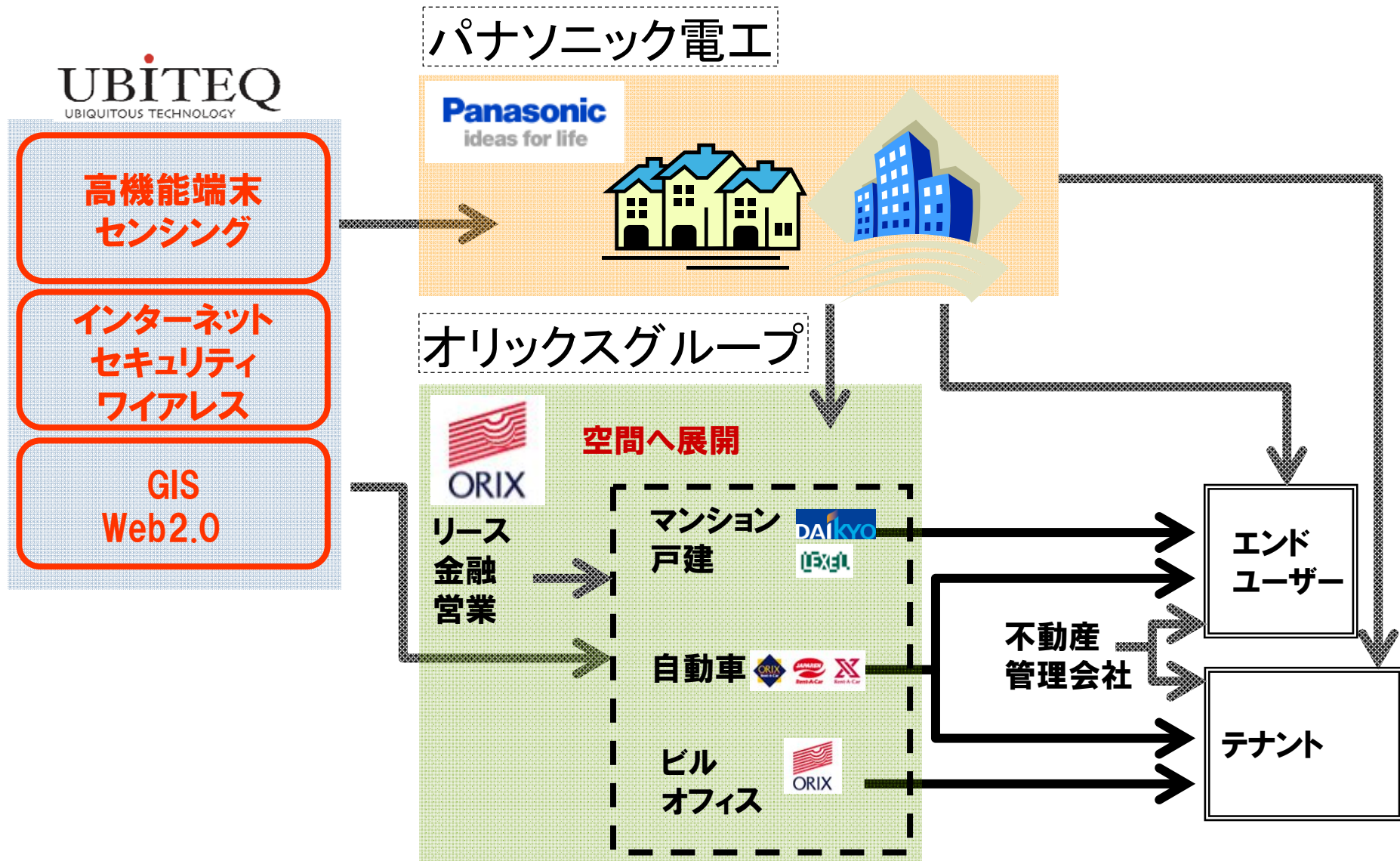
# 事業拡大施策

- 「個別サービス事業の強化発展」 × 「それぞれのプラットフォームの融合連携」





# ユビキタス新事業への挑戦：マーケット戦略



「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」  
を先進のユビキタス技術で実現する  
新環境ソリューション

UBITEQ  
BE GREEN



**本日は誠にありがとうございました。**

(本資料ならびにIRに関するお問合せ先)

株式会社ユビテック

管理本部 総務課

電話 03-5487-5560 FAX 03-5487-5561

<https://www.ubiteq.co.jp/contact/inquiry2.htm>